

2018年（平成30年） 3月16日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/1~3/7のNYMEX・WTIIは、60.99~62.60ドルの狭い範囲で推移した。

3月8日は、前日のEIA週報で米国の石油生産が過去最高を記録し、ガソリン在庫が高止まりするなど、米国の供給過剰懸念がさらに広がるとともに、先日来の保護貿易主義に対する警戒感もあり、続落した。4月限の終値は前日比1.03ドル安の60.12ドルだった。

週末9日は、米朝首脳会談開催発表や米国株価回復などを材料に投資家のリスク選好姿勢による買い、米雇用統計の結果による対ユーロのドル安進行の割安感、ペカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が796基(前週比4基減)と7週振りの減少等から、3日振りに大幅反発した。4月限の終値は前日比1.92ドル高の62.04ドルだった。

週明け12日は、先週末の高値を受けた利益確定売りが先行、週末の取組残高報告で非等業者(投資家等)が売り越したことなどから反落した。ただ、ドル安の進行や米国稼働リグの7週振りの減少等が下値を支えた。4月限の終値は前週末比0.68ドル安の61.36ドルだった。

13日は、4月の米国シェールオイル生産が695万バレル/日と過去最高に達するとのEIA生産月報の見通しや同日夕刻・明日の米国官民の原油在庫の増加予想など、供給過剰感が根強く、続落した。4月限の終値は前日比0.65ドル安の60.71ドルだった。

14日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫増加が市場予想を大きく上回ったものの、同日発表のOPEC月報の2月OPEC産油量が減少したとの報告、ユーロ高・ドル安進行に伴う原油先物の割安感などを材料に買

れ、3営業日振りに反発した。4月限の終値は0.25ドル高の60.96ドルだった。

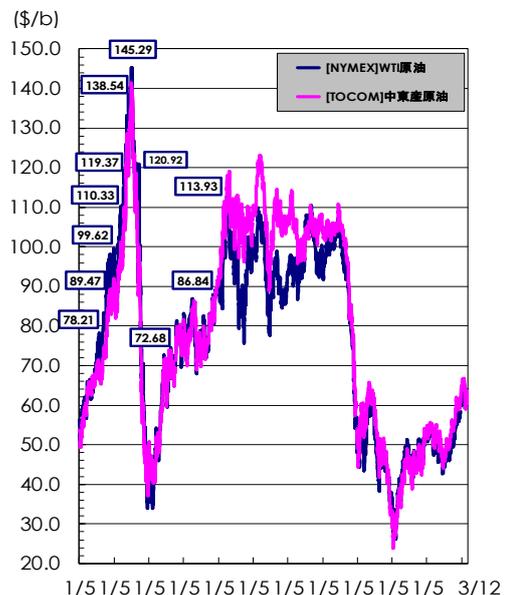
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週60.40~62.30ドルの範囲で推移した。3月8日60.90ドル、9日60.40ドル、12日62.00ドル、13日61.50ドル、14日は61.10ドルで推移した。

為替は、前週105.55~106.73円の範囲で推移した。3月8日106.12円、9日106.73円、12日106.95円、13日106.37円、14日は106.70円で推移した。

主要元売会社の3月第3週に適用する卸価格は、ガソリンが0.5~1.0円の値下げ、軽油が0.5~1.0円の値下げ、灯油が0.5~1.0円の値下げに分かれた。原油価格はやや値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、3月12日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は横ばい(18%ベース)だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油は3週連続の値下がり、灯油は3週振りに値下がりが止まった(18%ベース)。この週(3月第2週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンは据え置きから1.0円の値下げ、軽油は据え置きから1.0円の値下げ、灯油は据え置きから1.0円の値下げとなった。

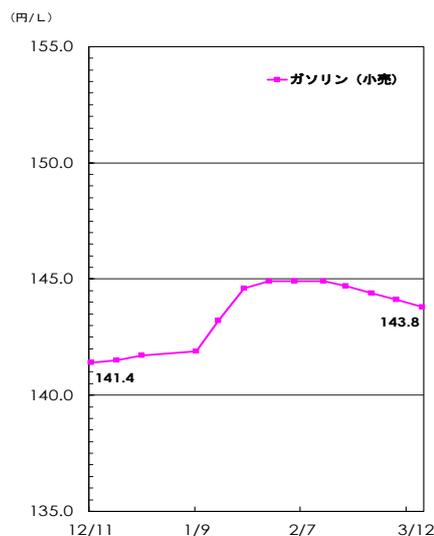
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/4 ~ 3/10	3,727 ▲ 62	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	95.2 ▲ 1.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/10	12,656 ▲ 691	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/12	61.92 ▲ 0.70	▲ 12.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/12	61.36 ▼ -1.21	▲ 13.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	69.24 ▲ 2.37	▲ 13.94
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	47,507 ▲ 1,095	▲ 8,052
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.09 ▲ 1.24	▲ 4.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/12	107.95 ▼ -1.40	▲ 7.87



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/4 ~ 3/10	1,011 ▼ -23	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	877 ▼ -53	▲ -	
	輸出	"	116 ▲ 46	▼ -	
	在庫	3/10	1,698 ▲ 18	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/6 ~ 3/12	57.8 ▼ -0.7	▲ 3.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/6 ~ 3/12	55.1 ▼ -0.7	▲ 2.8
		(TOCOM/中部)	3/12	56.0 ➡ 0.0	▲ 4.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/12	143.8 ▼ -0.3	▲ 10.3	

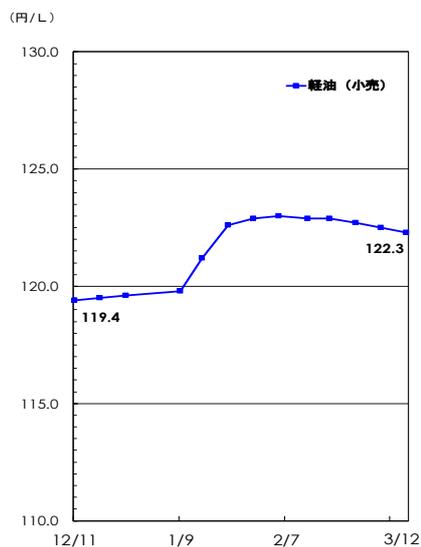
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

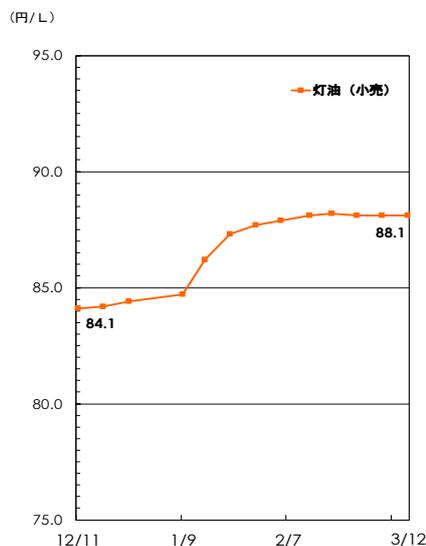
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/4 ~ 3/10	725 ▲ 5	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	621 ▼ -16	▲ -	
	輸出	"	173 ▲ 166	▲ -	
	在庫	3/10	1,199 ▼ -69	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/6 ~ 3/12	59.6 ▼ -0.1	▲ 7.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/6 ~ 3/12	62.0 ➡ 0.0	▲ 16.0
		(TOCOM/中部)	3/12	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/12	122.3 ▼ -0.2	▲ 10.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/4 ~ 3/10	403 ▼ -125	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	342 ▼ -100	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/10	1,346 ▲ 60	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/6 ~ 3/12	63.1 ▼ -1.1	▲ 12.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/6 ~ 3/12	60.3 ▼ -0.6	▲ 13.0
		(TOCOM/中部)	3/12	61.0 ▲ 0.5	▲ 14.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/12	88.1 ➡ 0.0	▲ 9.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月14日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比500万バレル増加と市場予想(同200万バレル増)を大きく上回り、3週連続の積み増しとなったものの、同日発表の石油輸出国機構(OPEC)月報で、2月のOPEC加盟国産油量が日量3,218万バレルと前月比7万バレル減となったこと、外国為替市場でユーロ高・ドル安が進行し原油先物に割安感が出たことなどを好感し、3営業日振りに反発した。4月限の終値は前日比0.25ドル高の60.96ドル、5月限の終値は前日比0.27ドル高の61.02ドルだった。

EIAによると、3月12日時点のガソリンの小売価格は、前週

比0.1セント値下がりの1ガロン2.559ドル(72.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.6セント値下がりの2.976ドル(84.8円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値下がり、ディーゼルは5週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年3月4日～3月10日に休止したトッパー能力は2.6万バレル/日で、前週に対して9.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は372.7万klと、前週に比べ6.2万kl増加。前年に対しては2.1万klの増加。トッパー稼働率は95.2%と前週に対して1.6ポイントの増加、前年に対しては7.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.2%減、ジェット/2.7%増、灯油/23.7%減、軽油/0.7%増、A重油/1.7%増、C重油/22.7%増。今週のC重油の輸入は18.3万kl(前週比12.3万kl増)。軽油の輸出は17.3万kl(前週比16.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットのみが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は87.7万kl(対前週5.8%減)と2週振りで前週比で減少、3週振りで前年比で増加となり、10週連続で100万klを下回った。ジェット14.5万kl(対前週26.5%増)、灯油34.2万kl

(対前週22.5%減)、軽油62.1万kl(対前週2.6%減)、A重油25.9万kl(対前週6.9%減)、C重油26.7万kl(対前週17.3%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/4 ~ 3/10)	前週 (2/25 ~ 3/3)	前週比	
ガソリン	877	930	▼ -53	(-6%)
ジェット燃料	145	114	▲ 31	(27%)
灯油	342	442	▼ -100	(-23%)
軽油	621	637	▼ -16	(-3%)
A重油	259	278	▼ -19	(-7%)
C重油	267	323	▼ -56	(-17%)
合計	2,511	2,724	▼ -213	(-8%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月10日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは169.8万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては0.5万kl多い。

灯油は134.6万kl、前週差6.0万kl増。前年に対しては11.1万kl多い。

軽油は119.9万kl、前週差6.9万kl減。前年に対しては36.3万kl少ない。

A重油は66.6万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては9.2万kl少ない。

C重油は192.6万kl、前週差11.9万kl増。前年に対しては4.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/10)	前週 (3/3)	前週比	
ガソリン	1,698	1,680	▲ 18	(1%)
ジェット燃料	711	751	▼ -40	(-5%)
灯油	1,346	1,286	▲ 60	(5%)
軽油	1,199	1,268	▼ -69	(-5%)
A重油	666	667	▼ -1	(-0%)
C重油	1,926	1,807	▲ 119	(7%)
合計	7,546	7,459	▲ 87	(1.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月6日から3月12日の原油価格は、前週対比で値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油コストは値下がりと見られる。

陸上スポット価格は、3月6日～3月12日までの間、ガソリン111～112円台で値下がり、軽油59円台でやや値下がり、灯油62～63円台で値下がりし推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン115～116円台で値下がり後大きく値上がり、軽油60～61円台で値下がり

後回復、灯油62～68円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～109円台で大きく値下がり後わずかに値上がり、軽油62円台で横ばい、灯油59～61円台で値下がり後やや回復して推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは0.5～1.0円の値下げ、軽油は0.5～1.0円の値下げ、灯油は0.5～1.0円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上ガソリンの値上がり・先物軽油の横ばいを除き、軒並み値下がりした。

3月第3週(3月15日～3月21日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月6日～3月12日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は1.1円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値上がり、灯油は5.5円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.7円の値下がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は横ばいだった。原油価格は値下がりし、為替もわずかに円高で、原油コストは値下がりした。

3月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリンが0.5～1.0円の値下げ、軽油が0.5～1.0円の値下げ、灯油が0.5～1.0円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー4地区平均	今週 (3/6～3/12)	前週 (2/27～3/5)	前週比
レギュラー	57.8	58.5	▼ -0.7
灯油	63.1	64.2	▼ -1.1
軽油	59.6	59.7	▼ -0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (3/6～3/12)	前週 (2/27～3/5)	前週比
レギュラー	55.1	55.8	▼ -0.7
灯油	60.3	60.9	▼ -0.6
軽油	62.0	62.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/6～3/12実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.7	▼ -0.7	▼ -0.7
灯油	▼ -1.1	▼ -0.6	▼ -0.9
軽油	▼ -0.1	→ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の143.8円、軽油は同0.2円安の122.3円、灯油は同横ばいの88.1円(18%ベースででも同横ばいの1585円)だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油は3週連続の値下がり、灯油は3週振りに値下がりが止まった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは4府県、横ばいは5道県、値下がり38都府県だった。全国最安値は徳島県の137.9円(同0.3円安)、次が埼玉県139.4円(同0.4円安)、最高値は長崎県の151.8円(同0.1円安)だった。最も値上がりしたのは、0.3円高の佐賀県(148.8円)と山梨県(145.0円)だった。最も値下がりしたのは、1.8円安の石川県(142.9円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売会社の卸価格は、ガ

ソリンが据え置きと1.0円の値下げ、軽油が据え置きと1.0円の値下げ、灯油が据え置きと1.0円の値下げとに分かれたが、4週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油コストは値下がりした。次週(3月19日)のガソリンと灯油の小売価格は小幅な値下がりが予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

週動向	今週 (3/12)	前週 (3/5)	前週比	直近高値
レギュラー	143.8	144.1	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	88.1	88.1	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	122.3	122.5	▼ -0.2	08/8/4 167.4

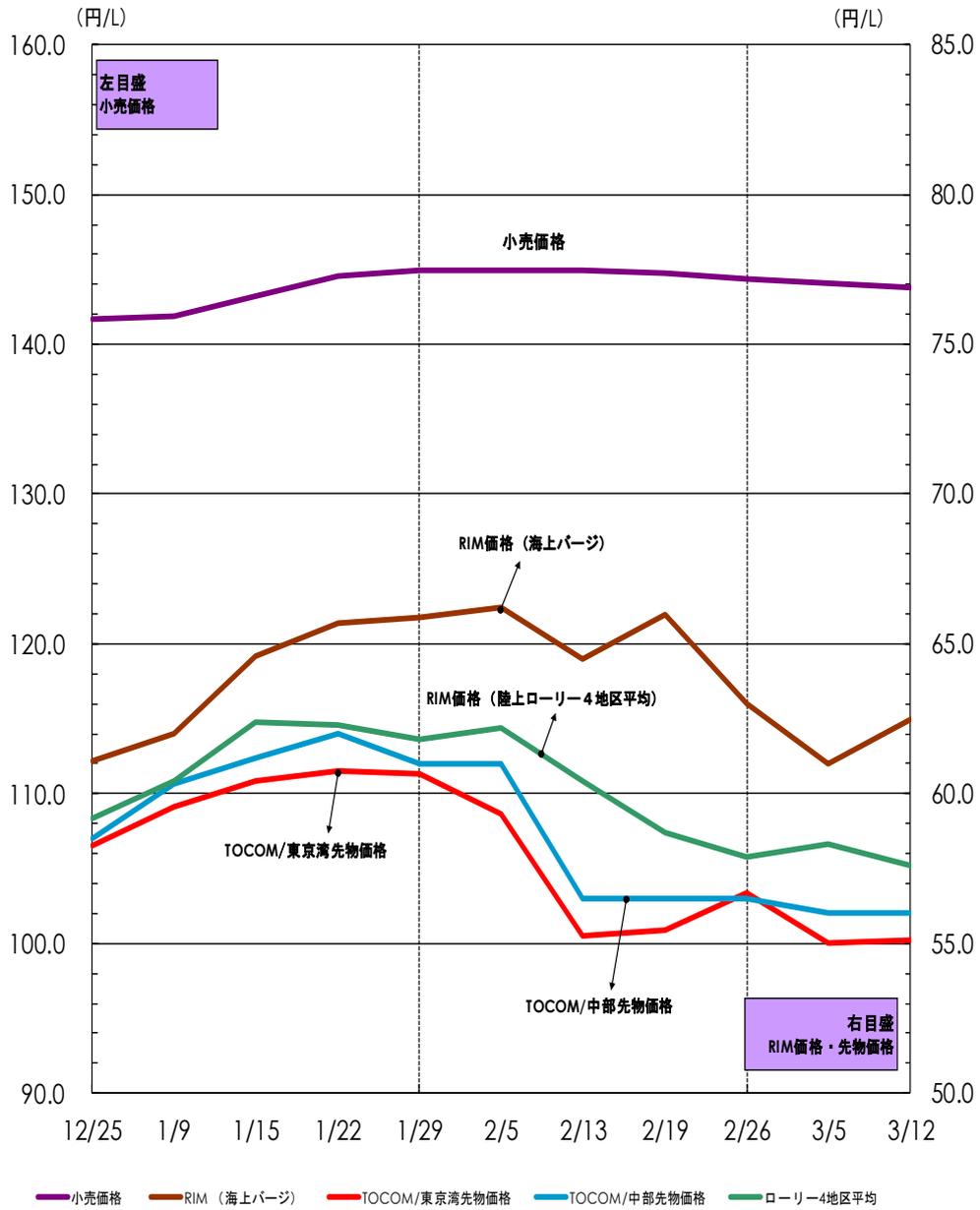
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/12/25 ~ 2018/3/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第48号)の公表は、3/23(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。